

# 読書推進運動

公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.681

- ★「敬老の日読書のすすめ」書目決定 (2頁)
- ★「第78回 読書週間」開催について (3頁)



## 「敬老の日読書のすすめ」によせて 漫画『サザエさん』が持つ 「普遍性」と「時代性」

朝日新聞出版 AER A 編集部  
「サザエさん」担当

くどうさ はる  
工藤早春

「敬老の日読書のすすめ」によせて

「敬老の日」に本の贈りものをお考えでしたら、ぜひおすすめしたいのが『サザエさん』の昭和図鑑です。昭和20〜40年代に新聞紙上で連載された4コマ漫画『サザエさん』を202本収録し、各漫画に描かれた当時の衣食住や社会情勢を、貴重な白黒写真とともに解説しています。

ところで、みなさんが『サザエさん』と聞いて思い浮かべるのは漫画でしょうか？ それとも日曜日の夕方に放送されているアニメでしょうか。昭和30年代までに生まれた方なら圧倒的に「新聞の4コマ漫画」＝『サザエさん』ではないでしょうか。

作者は昭和を代表する漫画家・長谷川町子（1920〜1992）。『サザエさん』の

みならず『いじわるばあさん』『エプロンおばさん』など、読めば誰もが笑い、ほっこりする漫画を多数生み出し、戦前、戦後、そして現在にいたるまで人々の心を照らし続けています。

『サザエさん』は1946（昭和21）年から『夕刊フクニチ』に、1951（昭和26）年から1974（昭和49）年にかけては朝日新聞紙上で連載されました。掲載された作品は単行本にして68巻を数えま

す。その作品のひとつひとつを読むたびに感じるのが、いつ読んでも共感できる「普遍性」と、描かれた時代を伝える「時代性」です。

「普遍性」とは？ 「サザエさん」の登場人物、磯野家の面々を見ればわかっていただ

けるのではないのでしょうか。厳しいけれど実は誰よりも家族思いのお父さん（波平）、家族を支えるやさしくて働き者のお母さん（フネ）、おっちょこちょいだけど明るくて朗らかな長女（サザエ）と真面目な夫（マスオ）にわんぱくな息子（タラオ）、いたずら好きだけどお年寄りや女性にやさしい長男（カツオ）、おしゃままで空想好きな次女（ワカメ）、そしてたまに顔を出す調子のいい従弟（ノリスケ）……時代が変わろうとも読者が登場人物の誰かしらに感情移入できる構成です。

そして「時代性」。『サザエさん』は新聞漫画であったことから、その当時に起きた「事件」や「時代背景」「流行」といった「時代性」が色濃く

反映されています。実際、『サザエさん』には井戸やネズミ捕りといった当時のインフラや生活道具から、配給、大学紛争といった社会情勢や社会問題、大阪万博、東京五輪といったイベントまで描かれています。それらは昭和世代には見知ったものでも、平成・令和世代は知らない、見たことがないものがほとんどです。こうしたジェネレーションギャップを解消しつつ『サザエさん』を心ゆくまで楽しんでもらいたいと制作したのが、『サザエさん』の昭和図鑑です。

すでに手に取った読者からは「90歳の母が懐かしいと泣きながら読んでいます」と感想をいただいています。昭和世代が当時を振り返れるのはもちろん、昭和を知らない世代も昭和を理解し感じることが出来る一冊です。「敬老の日」の贈りものとして、平成・令和世代が「昭和を知る、学ぶ」資料としても最適です。ぜひ手にとってお楽しみください。



# 2024 敬老の日読書のすすめ

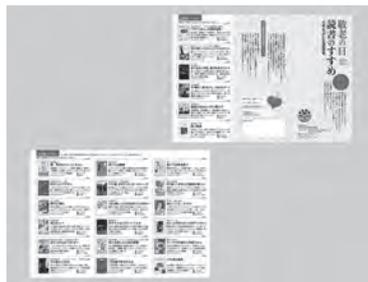
## 心ゆたかに生涯読書

「2024 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日（高齢者）にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は40の読進協から、83点の書目の推薦をいただきました。もともと多くの推薦があったのは、樋口恵子の『老いの上機嫌』で、5つの読進協から推薦がありました。ついで、黒柳徹子の『続窓ぎわのトットちゃん』と木村美幸の『100歳で夢を叶える』、石井哲代、中国新聞社の『103歳、名言だらけな一んちゃって』が4つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

今回は元気に過ごすための料理のレシピ集、スマホの活用術など実用的な内容の作品も選ばれていました。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メールでの投票と意見交換を行い、最



今年はちよい淡な赤茶色です

最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、13万5000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータ（PDF）もあります。

リーフレットは多少の予備を用意しております。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。

03-52244-5270  
03-52244-5271  
info@dokusyo.or.jp  
ホームページ  
<http://www.dokusyo.or.jp/>

### 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
黒柳 徹子	続窓ぎわのトットちゃん	一六五〇円	講談社
角野 栄子	月さんとザザさん	一四三〇円	小学館
井上 荒野	照子と瑠衣	一七六〇円	祥伝社
西條 奈加	姥玉みつつ	一七六〇円	潮出版社
信友 直子(作) 吉田 尚全(絵)	おとうさんは103さい	一七六〇円	さくら書房
谷川俊顕(レイイ) みかこ(内村)王(絵)	その世とこの世	一七六〇円	岩波書店
樋口 恵子	老いの上機嫌	一六五〇円	中央公論新社
石井 哲代 中国新聞社	103歳、名言だらけ。な一んちゃって	一四三〇円	文藝春秋
佐藤 愛子	人生は美しいことだけ憶えていればいい	八八〇円	PHP研究所
養老 孟司	生きるとはどういうことか	一七六〇円	筑摩書房
和田嶺(にやんま たねおこまき)(絵)	老いを楽しむ人生の言葉	一四八五円	Gakken
木村 美幸	100歳で夢を叶える	一七六〇円	晶文社
群 ようこ	老いてお茶を習っ	一八七〇円	KADOKAWA
野口悠紀雄	83歳、いま何より勉強が楽しい	一六五〇円	サンマーク出版
牧 壮	老いてこそ、スマホ	一六五〇円	主婦と生活社
増田 由紀	わたしが元気なのはこれを食べているから	一七六〇円	家の光協会
横山タカ子	シニアの手間なし栄養ごはん	一五九五円	主婦の友社
米山久美子	103歳の食卓	一六五〇円	プレジデント社
荻野恭子	「サザエさん」の昭和図鑑	一六五〇円	朝日新聞出版
長谷川町子 AERA編集部(編)	生まれ変わったらハリエンズになりたい	一七六〇円	河出書房新社
淡谷のり子 AERA編集部(編)	ぼくはあと何回、満月を見るだろう	二〇九〇円	新潮社
坂本 龍一	犬が着取り、猫がおくえ。しあわせのホーム	一七六〇円	光文社
石黒 謙吾	最後は住みたい町に暮らす	一八七〇円	集英社
井形 慶子	長い読書	二五三〇円	みすず書房
島田潤一郎			



2024・第78回

# 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。  
今年の標語は『この一行に逢い  
きた』です。期間中関係各位に  
よって全国的に実施される行事  
は、この標語を中心に展開される  
こととなります。

この数年で、電子図書館サービ  
スや学校教育におけるタブレット  
の活用が進み、読書環境が大きく  
変化してきました。その一方で、  
対面での読み聞かせや読書会の魅  
力、書店や図書館でリアルに本を  
選ぶ楽しさも再認識されていま  
す。図書館での各種行事、「BOOK  
MEETS NEXT」など出版界・  
書店によるイベントを通して、「読  
書週間」が紙・電子を問わず、本  
を通じて人とふれあい、世界が広  
がるようごびを、多くの方に実感

していただく機会となることを願  
います。

公益社団法人 読書推進運動協  
議会は、下記の4項目を「読書  
週間」のテーマとして掲げてい  
ます。

## (1) 国民すべてに

### 読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の  
本」が活動の原点です。「読書  
週間」は、読書の楽しさを伝え、  
すべての世代の人たちに本に親し  
むきっかけをつくっていただくた  
めにあります。多くの人が書店や  
図書館で一冊の本を手にとってみ  
る、そんな展示や行事を期待して  
います。

## (2) とくに青少年に

### 読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読  
まなくなった」といわれてきまし  
た。近年は、受験競争に加え、映  
像や電子メディアなどの発達で、  
ますます子どもたちの「読書」の  
時間がせぼめられています。しか

し、どんなメディアの時代でも、  
それを動かす主役が人間である以  
上、活字文化はすべてのメディア  
の基礎です。とくに幼少時から青  
少年時においての本とのつきあい  
が重要という認識のもとに、この  
運動を進めています。

## (3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書  
会、文庫、実演グループなど)は  
約1万1700あります(公益  
社団法人 読書推進運動協議会  
『2023年度 全国読書グループ  
調査』より)。グループ読書は読  
書の楽しみ、大切さを広めること  
で深い意義を持ちます。公益社団  
体法人 読書推進運動協議会は「読  
書週間」の期間中に「野間読書推  
進賞」と「全国優良読書グループ表  
彰」を実施し、全国の読書グルー  
プを応援しています。

## (4) 家庭文庫、地域文庫、 職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かに  
あることが必要です。各地域の公

共図書館が充実し、読書グルー  
プや家庭文庫、地域文庫が数多く作  
られること、また、図書館や文庫  
を支える地域の書店の活躍が、本  
の文化を支え、ひいては日本文化  
の発展に寄与することと私たちは  
信じています。

2005年(平成17年)7月29  
日に公布された「文字・活字文化  
振興法」により、10月27日が「文  
字・活字文化の日」と制定されて  
います。「読書週間」とともに、「文  
字・活字文化の日」もおおいに広  
めていただきたいと存じます。

## 記

名称 2024・第78回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出

版協会、日本雑誌協会、教

科書協会、日本出版取次協

会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書

店商業組合連合会)

後援 文部科学省

期間 10月27日(日)から11月9日

(月)まで

標語 2024 この一行に逢いきた

## 《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰(第

57回)」の実施

●「野間読書推進賞(第54回)」

贈呈式開催

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国の小・中・高

等学校図書館、書店、関係出版社

報道機関など)

●その他、道府県の読書推進運動

協議会、関係各団体の協力を得て、

各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・

高等学校の学校図書館などにおい

て「読書研究会」「読書のつどい」

「作家・評論家による講演会」「図

書・雑誌展示会」(著者をかこむ会)

などの開催。「読書感想文・感想

画コンクール」の実施

●道府県の読書推進運動協議会に

よる道府県単位の「読書大会」な

どの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団

体などによる、被災地域、児童

養護施設、矯正施設などへ向けた

「図書・雑誌の寄贈運動」の実施



読書推進運動協議会  
公式 X (旧 Twitter)

■「子どもの読書推進会議」総会開催

## 「上野の森親子ブックフェスタ」の成功を報告

7月12日(金)、出版クラブビル(東京都千代田区)において「子どもの読書推進会議」の2024年度第1回総会が行われた。推進会議を構成する各団体から24名の委員が出席した。この会議体の事務局は、読書推進運動協議会が務めている。

総会の冒頭、野間省伸推進会議代表は議長としての挨拶で、「読書を取りまく環境にさまざまな課題があるなか、読書推進活動の現場におけるネットワークがますます重要となっていく」と述べた。議事1として、事務局より



昨年度に開催された「絵本ワールド in 京葉」のデーブカット

2023年度の事業報告があり、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団と共催の「上野の森親子ブックフェスタ」と「絵本ワールド」事業を中心に報告、承認された。議事2として、「2023年度 収支決算書」について、明細も含めた説明があり、監査役より適正な手続きで監査を行い完了した旨の報告がなされ、収支決算書も承認された。

議事3の「2024年度 収支予算書」の説明を行った。「上野の森親子ブックフェスタ2024」拠出金、絵本ワールド事業などを中心に、2023年度とほぼ同等の予算を計上していることを報告し承認された。さらにその他として、2023年5月4日(土祝)・5日(日祝)開催の「上野の森親子ブックフェスタ2024」では、来場者数、売上金額ともに前年より増加したことや、オペレーションの合理化をすすめていること、などを報告した。最後に構成各団体より活動報告があり、閉会した。

■「造本装幀コンクール」受賞作決定

## 架空のレストランのレシピ本に当会賞を贈呈

日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの観点から総合的に評価、顕彰する第57回「造本装幀コンクール」の受賞作品が発表された。審査会は6月4日に行われ、2023年に初版が刊行された書籍を対象、応募があつた185者37点のなかから各賞21点を選出された。

ダヤ、バラエティ豊富なサンドイッチからスイーツまで、まるで実在の人気店のようなメニューを作り上げた。そしてそのレシピでは、こちらは実在の人気トースターブランド「BALMUDA」を使用するという、なんとも手の込んだ、にやりとってしまうような企画性だ。

同コンクールにおいては後援団体賞として「読書推進運動協議会賞」を毎回1点選出している。数多い応募書籍のなかから、白い立体装幀、坂田阿希子氏著の『RESTAURANT B RECIPE BOOK』(文化出版局)を選んだ。

まずはその企画性を評価したわけだが、ブックデザインの観点からも、カフェのメニューを思わせるカバーや、レシピのページと料理のページでつくりをかえるなど、とても気がきいている。そして料理写真はながめているだけで気分がよくなる美しさだ。

人気の料理家である著者が、架空のレストランを想定。パワープックファースト、スープ、サラ

ていねいに調理されたおいしい食べものをいただく時間には、良書を読む楽しみと共通する部分があるようにも思う。



読書推進運動協議会賞  
『RESTAURANT B RECIPE BOOK』

今回の「造本装幀コンクール」では3賞として、文部科学大臣賞『Je suis là(ここにいますよ)』(月とコンパス)、東京都知事賞「鍵のかかった文芸誌」(菊池拓哉)、経済産業大臣賞「心臓」(ふげん社)



左より『Je suis là(ここにいますよ)』  
『鍵のかかった文芸誌』『心臓』

が選ばれた。他の賞など詳細については、コンクールの公式サイトを参照のこと。

入賞作品は、ドイツ・ライプツィヒの「世界で最も美しい本コンクール」に日本を代表して出品され、さらにフランクフルト・ブックフェアで展示される。贈呈式は9月30日(月)に出版クラブで行われる。また、9月30日(月)から11月2日(土)の予定で、第57回造本装幀コンクールの受賞作品をはじめ全応募作品37点が出版クラブビル・クラブライブラリー(東京都千代田区)で公開展示される。

●造本装幀コンクール公式サイト  
<https://www.jpba.or.jp/zohon/zohon-winning.html>

「子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真」を、SNSで募集した、NPOブックスタート「第3回 いっしょにえほん写真コンテスト2024」の受賞作品25点が発表されました！

応募総数は247点。選りすぐりの受賞作より、一部をご紹介します。



←大賞 sachimagoさん(沖縄県)  
大賞は、イラストレーターの山口みれいさんがイラスト(上)に！



↑選者賞(きなこ賞)  
はーこさん  
(大阪府)

## NPOブックスタート主催 「第3回 いっしょにえほん 写真コンテスト2024」 発表！



↑入選  
だんご3兄弟♡さん  
(神奈川県)



選者賞→  
(NPOブックスタート賞)  
秋山 俊介さん  
(宮城県)



←入選  
村佐 飛鳥さん  
(大阪府)

- 写真の著作権は、受賞者(撮影者)に帰属します。
- 下記のサイトに、すべての入賞作品が掲載されています。

<https://www.bookstart.or.jp/>

《第3回 いっしょにえほん写真コンテスト2024》選者 \*五十音順  
かさいまりさん 絵本作家・日本児童出版美術家連盟 理事長  
金柿秀幸さん 絵本ナビ代表  
きなこさん フォトグラファー・インスタグラマー  
NPOブックスタート事務局



「おぼけをつくるう」では自作のおぼけを手に山本さんと記念撮影

「絵本作家の岡田千晶さんのパートでは、講演で絵本ができるまでをテーマに話をし、その後ワークショップとして、参加者と「色鉛筆で色塗り体験」を行った。福島

「絵本ワールドinふくしま 2024 絵本と作者と子どもの広場」が7月6日(土)、福島県須賀川市の須賀川市民交流センター(こも)で開催された。今年2月にも同じ会場で開催されて好評だったが、約5か月ぶりに再度実施の運びとなった。今回も絵本の販売のほか、子どもたちにむけて多彩なコンテンツが実施された。

## 会場は絵本と子どもたちの笑顔で いっぱい！

「絵本ワールドinふくしま」開催

県内のみならず、岩手県や茨城県からも参加者がある人気セッションとなった。

同じく絵本作家の山本孝さんは、自作絵本の読み聞かせをした後、参加した子どもたち、大人たちと一緒に、「ワークショップ「おぼけをつくるう」を行った。子どもたちがメインになって、山本さんといっしょに、好きなおぼけを作り、個性あふれるお化けがさまざまなバリエーションで完成。自分のアイデアで自由に創造をする楽しさに、子どもたちの歓声がひびいていた。

そのほかにも、ゲストとして登場したキャラクターたちとの撮影会、絵本専門土ゆうくんの読み聞かせ、参加型のワークショップなど、子どもたちがよろこぶ企画も数多く行われ、遠方からの来場者も含め、親子連れを中心に約1000人の来場者があった。七夕の季節の福島で、作家と直接会うことや、数多くの本とふれることの楽しさをあらためて実感した一日だった。

■千代田図書館が情報交換会を開催

### 図書館、出版、書店の新しい協力関係を模索する

7月11日(木)、東京都千代田区の日比谷図書文化館で「出版情報交換会」はじめの一步から始めませんか!!(主催)千代田区立千代田図書館が開催された。

この情報交換会は、書店・図書館・出版者の3者が新たな関係構築する一歩として「出版社による図書館の蔵書欠本調査」を紹介し、今後の「実のある交流」を目指すことを目的として企画された。

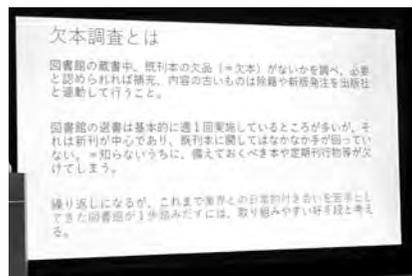
開会主旨の説明は、千代田図書館館長の小出元二さん。これまで、千代田図書館は出版社との情報交換会を重ねてきたが、一回ごとにテーマを語りあつて終わるのではなく、ひとつの目標を持つて継続することで、たがいに協力しあえるのではないかと、そのテーマとして「欠本調査」が有効と考えた。実際に有斐閣に協力を仰ぎ、調査をしたところ、「情報が古いなど」利用に適さない資料が多くあつたことに驚いた。利用者が求める基本資料の収集、スタッフのスキル向上につながった。「かなり手間がかかる作業なので、出版社・図

書館が対応できるのか、会場から意見がほしい」と、語った。

なお、千代田図書館と有斐閣が協力して行つた欠本調査の方法は以下のとおり。

①千代田図書館所蔵の有斐閣資料をリストにして、有斐閣へ渡す。この際、図書館の収蔵方針についても説明。

②有斐閣はリストのうち、情報が古いなど利用に適さない資料を「除籍推奨」として、また、利用しにくい資料的価値があるものを「閉架推奨」、新版がでているものを「買替推奨」として千代田



菊池社一さんによる欠本調査の説明

図書館へ回答する。  
③有斐閣の回答を元に、千代田図書館が蔵書構成を検討する。

次に、出版アドバイザーの菊池

壮一さんが、提案講演「出版社と図書館の結び目」はじめの一步で、売上減少、書店激減など問題が山積する出版界の再興には「図書館と出版界の連携が必要。その一歩としての欠本調査での協力を」と、千代田図書館の取組を評価した。また、図書館、地元書店、

学校・大学、出版社が協力して「贈りたい本大賞」や「読ラバー」などを行つている、山梨県の「やまなし読書活動促進事業」や、青森県八戸市の市営書店「八戸ブックセンター」など、さまざまな事例を紹介。「本を読まなくなつていのが書店衰退の最大原因。本を買つて読むことは文化のパトロンになること。このことを、図書館、出版社、書店は伝えていかななくてはいけない」と述べた。

会終了後には、全国から集まつた参加者による、名刺交換の場も設けられた。  
千代田図書館によると、今回の情報交換会はプレ開催であり、2024年中に本開催を目指している。

### 優良読書グループの歩み (8)

2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### 岩美みんなを語る会

代表者 片村 俊子

鳥取県岩美郡岩美町

(推薦)

鳥取県読書推進運動協議会

わたしたち「岩美みんなを語る会」は2006年に岩美の民話に興味のある3人で集まり、翌2007年に会を発足、さらに1名の参加があり、4名でスタートをし16年目を迎えました。

最初は、現地に向いて地域の方々にお世話になりながら、見たり聞いたりして岩美に伝わる民話を採取しました。もう少し早く始めていれば数多くの話を聞くことができたと思いますが、知っておられる方が高齢になつておられすべての話を聞くことができず、残念な思いをしました。テープ起こしにも苦労はありましたが、目からうろこの連続蒐集でした。同時に民話を聞いてもらいたいと思

図書館の「おはなし会」で語ったり、保育所や福祉施設などでも語つたりしました。

そんなときに布の絵本グループ「ちくちくチョッキン」のみなさんが「岩美のみんな」の布の絵本を作つてくださることとなり、今はこの布の絵本も使つて、目と耳で民話の伝承に力を入れていきます。

また、冊子も町の協力を得ながら、2014年に「うちげの昔ば



民話の語りで地域文化の伝承に貢献

なし」、2019年に「岩美のみんな」の2冊を発行することができました。

現在は7名の会員で、図書館が主催する毎月の「おはなし会」で子どもたちに語ったり、高齢者グループの会で語ったりしています。みなさんの「おもしろかった」「岩美にこんな話があったか」などの声に支えられてがんばっています。

会員の年齢が高く、80代3名、70代3名、60代1名です。おはなしを覚えるのも一苦労です。「おはなし会」に来る子どもたちはコロナ以降、低年齢化しました。小さな子どもたちに「岩美のみんな」を理解し楽しんでもらうにはどうしたらよいか模索中ですが、これからも、目と耳で若い世代へ「岩美のみんな」を伝えていきたいと思っています。

### 三島読書グループ 連絡協議会

代表者 森川 啓子  
愛媛県四国中央市

〈推薦〉  
愛媛県読書推進運動協議会

1964年11月、伊予三島市読書グループ連絡協議会として発足

し、2004年、市町村合併に伴い、三島読書グループ連絡協議会となりました。

1980、1981年度の会員数は、650名を超え、市立図書館と共催で読書推進大会も開催していましたが、幼稚園、学校のPTAグループなどが解散するなか、会員の高齢化もあり、2023年度の会員数は、3グループ23名です。読書会でテキストを輪読し、話しあうことによって読みを深め、琴線にふれることばに出会えうことが継続のための大切な要素となっており、毎月の読書会記録(年一回のグループも有)を作成するなど、地道な活動を続けています。

来年、連絡協議会は60周年を迎えます。グループ間で協力し交流を深めながら、以下に列挙する読書講演会、研修旅行、市文化祭参加、会誌発行などの行事を行っています。

市民対象の読書講演会では、さまざまな分野から講師を招き、好評を得ています。俳人・夏井いつき氏を迎えての「ことばで楽しい」では、参加者同士が和気あいあいと句作り、のちに俳句を始めた方も。また、朝の読書提唱者の林公氏による「今なぜ朝の読書が必要なのか」が発端となって、

市内の全小中学校で「朝の読書」が行われるようになるなど、講演会が役立ったことはうれしいことでした。

コロナ禍においては、『二宮金次郎』や、小野和子氏の民話トキメタリー『うたうひと』の映画会を参加人数を制限して行いました。

おたがいの親睦を図るための研修旅行では、文化施設や文化人、郷土の祭りをたず訪ねるなど、充実した研修になるよう工夫を重ね、多数の参加を得ています。なかでも思い出深いのは、尼崎市の森信三先生や砥部町の坂村真民先生を訪ね、ご講話を拝聴したことです。

市文化祭では、読書の楽しさや地域文化の魅力を発信してきましたが、2019年から市内の小中学生の参加を得て民話を語るイベントを開催。おはなしと一緒に楽しみながら、子どもたちに郷土への愛着や読書の楽しさ大切さを伝えられたらと願っています。

2000年より発行の会誌には、各読書会の様子や行事を掲載。読む仲間が増えるよう、魅力ある活動を紹介していきたいと思っています。

### 伊平屋小学校 メルヘン隊

代表者 屋良 篤  
沖縄県島尻郡伊平屋村

〈推薦〉  
沖縄県読書推進運動協議会

伊平屋小学校メルヘン隊は、2003年4月に、伊平屋小学校の校長(当時)の発案によって発足した。子どもたちの基礎学力を確実におさえ、読書の習慣化を目指す、現在にいたる。

地域のボランティアや賛同する保護者、学校教職員が「メルヘン隊」として活動しており、現在34名で運営。

毎週金曜日の朝15分間に各学年(幼稚園〜6年生)へ読み聞かせを行っており、10月には隊員による「メルヘンアワー」と題したイベントを実施している。

朝の忙しい時間帯での読み聞かせであるため、新規メンバーを増やすことが課題となっている。保護者には年一回でも参加を依頼し、「保護者の読み聞かせ」に取り組んでいる。この体験を通じ、家庭で本に関する話題が増え、活動へ参加する保護者が増えることを期待している。

参加する隊員や運営する側が「みんなが楽しく、楽しむこと」ができるよう無理のない活動を心がけている。

読み聞かせのあと、時間的余裕のある隊員が、読み聞かせの様子や日々の活動についてコミュニケーションをとる場を設けている。

今いちばんの希望は、新しい隊員を増やすこと。隊員が増えることで年齢層や職種などの幅も広がり、それらの方々を活かした取組ができれば、子どもたちに新たな読書の魅力を発信でき、新たな時代にそった活動ができるのではと考えている。



読み聞かせをはじめ多彩なプログラムでの「メルヘンアワー」



# 2024 第78回 読書週間 ポスターイラスト決定!

7月19日(金)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」(出席11名)が開催され、「2024第78回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は381点。事務局による第一次選考で24点を選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員会による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■優秀賞(賞金1万円)——3名  
本間 咲羽さん(宮城県仙台市) つだんぼさん(福井県あわら市) 塚越 續さん(大阪府貝塚市)

■入選(記念品)——8名  
秋間 理子さん(北海道石狩市) 井之上竜子さん(埼玉県新座市) 牛尼 陽菜さん(東京都文京区) 佐藤 桃華さん(東京都文京区) 小堀 藍さん(東京都東村山市) 小林 理恵さん(東京都町田市) 伊藤 明大さん(滋賀県長浜市) たしまさとみさん(福岡県福岡市)

■大賞(賞金10万円)——1名  
熊 梨江さん(長崎県長崎市)

本年度のポスターイラストは、標語「この一行に逢いにきた」を



大賞  
(ポスターイラストに採用)  
熊 梨江さん

テーマに募集。応募者のみなさんは、「一行に逢う」をどう表現するのか、苦心されたようです。心に響くフレーズに出会った喜びや驚きを描く、物語に没入して一行を探す旅をする、などの作品が目立ちました。

大賞を受賞したのは、熊梨江さん。本を読む少年の不思議な浮遊感が印象的なイラストです。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



本間 咲羽さん



つだんぼさん



塚越 續さん

## 事務局報告(7月)

1日「子どもの読書推進会議」2023年度事業報告書 入稿

1日「全国優良読書グループ表彰」推薦依頼を道府県読書協へ依頼

1日「役員交代に係る登記関連資料を司法書事務所に送付」

5日「会員社に愛読書報告書を郵送」

5日「機関紙「読書推進運動」680号入稿」

6日「絵本ワールドinふくしま」開催

8日「機関紙「読書推進運動」680号 責了」

10日「日本雑協協会へ「読書週間広報」掲載協力を依頼」

11日「読書週間ポスターイラスト募集」事務局選考会

11日「千代田区立図書館「出版情報交換会」はじめての一步から始めませんか!」出席(日比谷図書館)

12日「機関紙「読書推進運動」680号 出来」

12日「子どもの読書推進会議 2024年度第1回総会 開催」

16日「読書週間ポスターイラスト募集」デザイナー選考会 開催

19日「読書週間ポスターイラスト募集」選考委員会 開催

19日「敬老の日読書のすすめリーフレット」読書週間 趣旨書 責了

22日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書 責了

23日「2024年度第2回常務理事会 開催」

26日「野間読書推進賞」推薦締め切り

27日「28日」日本子どもの本研究会研究大会 出席(オンラインビッグ記念書少年総合センター)

29日「第29回「日本絵本賞」表彰式・記念イベント」出席(城西国際大学)

30日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書 出来

## 編集部&事務局の ひとこと

●この号の4ページに掲載のとおり、本年度の「造本装幀コンクール」の「読書推進運動協議会賞」に食をテーマにした本を選んだ。「読書と食」はとて親和性が高いと思っております、本を読み、食事を楽しむ生活を長く続けてきた。

●池波正太郎さんは『鬼平犯科帳』や『剣客商売』などのシリーズや、数多の長編も存分に読んできたが、じつは「食卓の情景」をはじめとする食がテーマのエッセイの大ファンである。何冊も何度もくりかえし読んできたが、料理のこと、お店のことを知るだけでなく、食事や旅の「作法」を学んできたようにも思う。ちなみに神保町、小川町界隈にゆかりのお店が多いのもうれい。60歳を過ぎてから、長く働いた首羽を離れ、この地に勤務するようになったのも、なにかの縁かと思っている。

●学生から社会人になっても、著者のロバート・B・パーカーが亡くなるまで、新刊が出るのを待ちかまえるように読み続けてきたスペンサーシリーズでは、スペンサーが料理をするシーンがさかんに描かれる。従来のいわゆる「タフガイ」が主人公のハードボイルドと異なる「ネオ・ハードボイルド」などといわれたものだった。レシピも詳細で、肉の焼き方をまねてみたりもしたし、スペンサーの飲み方を食前酒と食中酒のアレンジの参考にしたりもした。

●よい本と、おいしい食事は生活を豊かにする、心の底からそう信じている。みなさまと、良書の出会いを祈念して乾杯!

(佐々木)